

都市再生整備計画

とまこまいえきしゅうへんみなみちく
苫小牧駅周辺南地区

第2回変更

ほっかいどうとまこまいし
北海道苫小牧市

令和6年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	北海道	市町村名	苫小牧市	地区名	苫小牧駅周辺南地区	面積	36.6 ha
計画期間	令和 4 年度 ~ 令和 8 年度	交付期間	令和 4 年度 ~ 令和 8 年度				

目標
【大目標】
 苫小牧市の産業と生活を支える中心的拠点としての賑わい創出
【小目標】
 ・魅力ある文化芸術の創造、発信、交流拠点の形成による地域活力の向上
 ・にぎわいのある滞留空間の確保

目標設定の根拠
 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 地域の特性や役割分担を踏まえた中で適切な都市機能、居住機能の誘導・複合化を図り、地域を支える担い手となる子育て世代が働きやすい、住みやすい生活環境の整備を推進する。また、子育て環境や教育文化施設の整備・充実を図り、安心して子育てができる環境づくりを推進する。
 分節型・集約型都市構造への転換を推進し、拠点を中心に生活利便機能を集約させ、鉄道・バスなどの公共交通との連携を図ることにより、高齢者が自動車を利用しなくても快適で、安全・安心な居住環境の維持・向上を図る。また、人口減少段階や高齢者等の人口配置の見直しを見据え、福祉・医療サービスなど公共サービスの効率化・最適化を図る。
 中心市街地に複合的な都市機能の導入やウォーカーフレンドなまちなか形成などに取組み、競争力の強化や中心市街地の魅力、求心力の回復・向上を図り、若者世代にとって魅力的な住みたいまちの構築を推進する。また、都市機能や生活利便施設が集約した拠点を形成することにより、新たな雇用機会の創出や雇用環境の充実・持続化を図り、若者世代が移住・定住しやすくなる都市機能形成を推進する。

まちづくりの経緯及び現況
 苫小牧駅周辺南地区を含む中心市街地は、かつて市民の買い物の場・交流の場として、商業、業務、居住等の都市機能が集積し、長い歴史の中で文化、伝統を育んだ、様々な機能や役割を持つ「まちの顔」とも言うべき地域である。
 また、本市ではJR苫小牧駅を中心とするまちなかの活性化について、様々な施策を展開してきたが、近年のモータリゼーションの進展や郊外型大型店舗の出店、まちなか居住人口の減少、消費者ニーズの多様化等の影響により、本市のまちなかの衰退が進みつつある。また、人口減少・超高齢社会という時代の大転換期を迎え、本市の人口動態も、転出が転入を上回る社会減、出生数が死亡数を下回る自然減へとシフトしている。
 そのような中、都市機能の拡散傾向に歯止めをかけ、多くの人が暮らしやすい、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり(持続的なまちづくり)の実現に向けて、平成23年6月に「まちなか再生総合プロジェクト(CAP)」がスタートし、これまでパート1から3に期間を分けて取組みが行われてきている。特に令和2年度からスタートされたパート4では、「シビックプライド(まちなかの新たな誇りや愛着)を育むまちづくり」をテーマに、苫小牧の顔であるまちなかに対する、新たな誇りや愛着を育てる取組が実施されている。

課題
 ・苫小牧駅周辺南地区の活性化のため、都市機能の再編・集積、空き地・空き店舗等の活用、本市ならではの新たな拠点の形成が求められている。
 ・まちなかの魅力向上に向けて、市民や来訪者が集い憩うことのできるパブリックスペースの確保が求められている。
 ・子どもから高齢者等、誰もが便利で安心して暮らしていくために、安全・安心に歩行・回遊できる環境づくり(ユニバーサルデザインの推進)や、防災対策の実施が求められている。

将来ビジョン(中長期)
【都市計画マスタープランでの位置づけ(2019~2038年、2019年度策定)】
 ・都市計画マスタープランにおいて、定められている将来都市像「持続的な雇用が育む人間環境都市・苫小牧~産業と環境が調和し、生活の魅力と活力に満ちた持続的都市の形成~」の達成のため、以下に示すまちづくりの目標が設定されている。
【目標1】産業立地の促進に向けた都市基盤などの整備
【目標2】苫小牧市の顔となる都市拠点の形成
【目標3】身近な生活利便機能が集積した生活拠点の形成
【目標4】貴重な自然資源・海洋資源を活かした広域的な交流エリアの形成
【目標5】市民参加による協働のまちづくりの推進
 ・地域ごとの将来像、整備方針などを定めた「地域別構想」の中央部地域における地域づくりの目標と基本方針では、「苫小牧市の顔として誇れる都市拠点の形成」を目指し、「苫小牧市をけん引する都市拠点の形成」「苫小牧市の顔となる都市骨格軸の強化」「苫小牧市の魅力を高める交流機能の強化」「災害対応の中核部における防災・減災対策の実施」を推進することが掲げられている。
【CAP4での位置づけ(2020~2022年、2020年度策定)】
 ・目標として「苫小牧の顔」であるまちなか独自の魅力の創造、にぎわいの創出を図り、誰もが安心して暮らせる「人にやさしいまち」、地域の特徴を活かした「誇りと愛着が持てるまち」を目指し、まちづくりを進めることとしている。
 ・基本方針として、「賑わいの創出」「公共交通の利便性の向上」「まちなか居住の推進」が示されている。
 ・CAP4のテーマとして、苫小牧の顔であるまちなかに対する新たな誇りと愛着を育て、日常的ににぎわいの創出へと繋げるために「シビックプライド(まちなかの新たな誇りや愛着)を育むまちづくり」が示されている。
 ・ターゲットとして、各種団体や既存の拠点施設、商店街等との連携のほか、これまでの取組で構築された、まちづくりに携わる団体や人材のネットワークを活かしながら、さらに多くの人を巻き込むとされている。

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
都市機能配置の考え方
 本市の苫小牧駅から国道36号線沿道に至るエリアは、区域交通結節機能や行政機能をはじめ、商業・業務・医療・福祉、文化・交流、宿泊などの多くの都市機能が集積しているため「都市拠点」と位置付け、未利用施設、未利用地の活用や公共施設の再編・集約化、まちなか居住の推進などにより、高次施設機能の集積を図る。また、本市は東西に細長い市街地が形成されているため、生活に必要な全ての都市機能を1箇所に集約することは、都市機能を楽しむための移動距離が長くなるため、要所に医療・福祉、商業、交流などの身近な生活利便機能が集積した「生活拠点」の形成を図る。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 中心市街地にある、苫小牧東小学校跡地に苫小牧市民会館、苫小牧交通安全センター、苫小牧市労働福祉センター及び苫小牧文化会館の機能を統合する高次都市施設(地域交流センター(苫小牧市民文化ホール))を整備する。また、施設周辺の緑地を整備することで、サードプレイスとして市民の交流の拠点となり魅力の向上に寄与する。

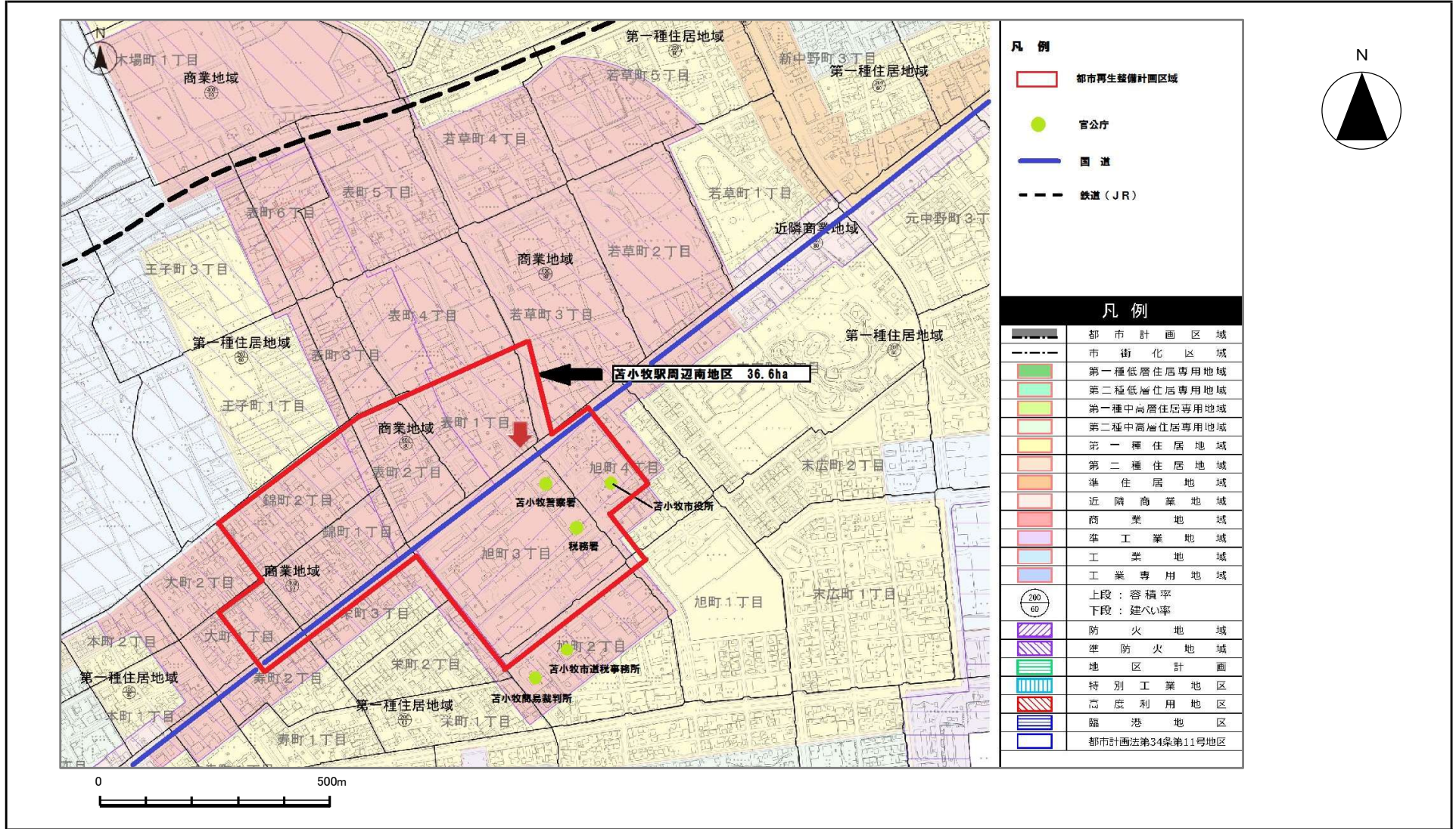
目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
(仮称)苫小牧市民ホール利用者数	人/日	(仮称)苫小牧市民ホールの年間利用者数 ※従前値は既存4施設の年間利用者数	文化・芸術に係る活動と交流を振興する拠点として(仮称)苫小牧市民ホールが整備されることにより、まちなかへの人の流れが増加し、まちなかでにぎわい創出が期待される。	328,448人/日	H30	338,301人/日	R8
苫小牧駅周辺南地区でのイベントの開催数	回/年	地区内での年間イベントの開催数	公共交通の利用と連携した中心市街地の賑わいの再生市民ホールが市民にとってのサードプレイスとなるため、公共の広場として市民のさまざまな活動が展開される場となることで、まちなかでにぎわい創出が期待される。	0回/年	H30	1回/年	R8
苫小牧駅周辺南地区の歩行者通行量	人/8時間	地区内の複数地点の歩行者通行量(10:00~18:00)	まちなかの魅力の向上、ユニバーサルデザインが向上することにより、まちなかでにぎわい創出が期待される。	827人/8時間(休日)	R3	868/8時間(休日)	R8

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【魅力ある文化芸術の創造、発信、交流拠点の形成による地域活力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦小牧市民会館、苦小牧市交通安全センター、苦小牧市労働福祉センター及び苦小牧市文化会館を旧苦小牧東小学校跡地に集約し、活動機能、観賞機能、展示機能、窓口機能を備えた新たな施設としての市民ホールを整備し、駐車場を完備することでより訪問しやすい環境を整える。 ・地域の持つ素晴らしい資源の活用により、地域活力の向上を図るため、旭中央通りに周辺施設等の情報を伝える案内板を整備する。 <p>・来訪者等への情報発信をさらに充実するため、市民ホール周辺の文化施設等を紹介する周辺マップ、パンフレット等を作成する。</p> <p>・市民ホールの開館に先立ち、周辺地域においてプレイベントを開催し、開館後の地域活力の向上に向けたPR活動を行う。</p> <p>・市民ホール周辺地域の防犯を充実し、周辺地域の安全を図る。</p> <p>・交流人口の増加に向け、当市における多彩な魅力資源を活用した賑わい創出に係る事業を展開する。</p>	<p>方針に合致する主要な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【基幹事業】 (高次都市施設 地域交流センター)(仮称)苦小牧市民ホール整備運営事業 (地域生活基盤施設 情報板)情報板整備事業 ・【提案事業】 (地域創造支援事業)周辺文化施設マップ作成事業 (地域創造支援事業)(仮称)苦小牧市民ホール開館プレイベント開催事業 (地域創造支援事業)防犯カメラ設置事業 (地域創造支援事業)苦小牧都市再生コンセプトプラン実現に向けた賑わい創出事業 (地域創造支援事業)(仮称)苦小牧市民ホール子育て支援施設整備事業
<p>【にぎわいのある滞留空間の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)苦小牧市民ホール周辺に、市民が集い、滞留し交流できる歩道空間と調和のとれた屋外緑地や植栽を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【基幹事業】 (地域生活基盤施設 緑地)(仮称)苦小牧市民ホール周辺緑地整備事業 (高質空間形成設備 緑化施設)(仮称)苦小牧市民ホール周辺緑化施設整備事業
<p>その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○住民との合意形成 <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)苦小牧市民ホールの基本構想の策定に関し、市民を対象にアンケートを実施しパブリックコメントを行っている。 ・(仮称)苦小牧市民ホールの基本計画の策定に関し、市民フォーラムや市民参加のワークショップ等を開催しパブリックコメントを行っている。 ○事後評価について <ul style="list-style-type: none"> ・各指標の達成度を定期的に点検することを目的として、事後評価調査を実施する。 	

苫小牧駅周辺南地区

面積	36.6	ha	区域	苫小牧駅周辺南地区(旭町3丁目、4丁目の一部、表町1丁目、2丁目、錦町1丁目、錦町2丁目、大町1丁目の一部)
----	------	----	----	--



苫小牧駅周辺南地区(北海道苫小牧市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中事業)

目標 【大目標】 苫小牧市の産業と生活を支える中心的な拠点としての賑わい創出 【小目標】 ・魅力ある文化芸術の創造、発信、交流拠点の形成による地域活力の向上 ・にぎわいのある滞留空間の確保	代表的な指標	(仮称)苫小牧市民ホール利用者数 (人/日)	328,448人/日 (H30年度) → 338,301人/日 (R08年度)
		苫小牧駅周辺南地区でのイベントの開催数 (回/年)	0回/年 (H30年度) → 1回/年 (R08年度)
		苫小牧駅周辺南地区の歩行者通行量 (人/8時間)	827人/8時間(休日) (R03年度) → 868/8時間(休日) (R08年度)

